平成29年改訂学習指導要領の趣旨を踏まえた
学習評価の進め方

小学校　外国語科

この資料は，平成29年改訂学習指導要領（以下，学習指導要領）に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，国立教育政策研究所の「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（以下，「参考資料」）の考え方を基に，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における，指導と評価の一体化に向けた取組の推進にぜひお役立てください。

目次

1　学習評価の基本的な考え方 …… 1
2　学習評価の観点 …… 1
3　小学校外国語科の教科目標 …… 2
4　小学校外国語科における評価の観点及びその趣旨 …… 2
5　小学校外国語科における観点ごとの評価のポイント …… 3
6　小学校外国語科における学習評価の進め方 …… 6
7　小学校外国語科における学習評価の事例 …… 8
8　学習評価の進め方Ｑ＆Ａ …… 20

令和２年 12 月　佐賀県教育センター

1　学習評価の基本的な考え方

○学習評価とは

児童生徒の資質・能力を育成するために，目標に照らして児童生徒一人一人の学習状況を的確に把握すること

○学習評価を行う上で重要なポイント

① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
③ これまで慣行として行われてきたことでも，必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

学習評価を行うに当たっては，児童生徒一人一人の資質・能力を育成できるようにすることが大前提です。そのためには，児童生徒の進歩の状況や教科等の目標の実現状況を適切に把握することが必要です。把握した内容は，児童生徒にフィードバックして児童生徒の学習改善につなげられるようにし，教師は自身の指導改善につなげます。このことなくして児童生徒一人一人の資質・能力の育成は望めません。つまり，学習評価を行う上で，「普段の授業の不断の見直し」が不可欠だと言えます。

○学習評価の機能

指導に生かす評価･･･児童生徒一人一人の学習状況を把握し，児童生徒の学習改善や教師の指導改善につなげるための評価のこと

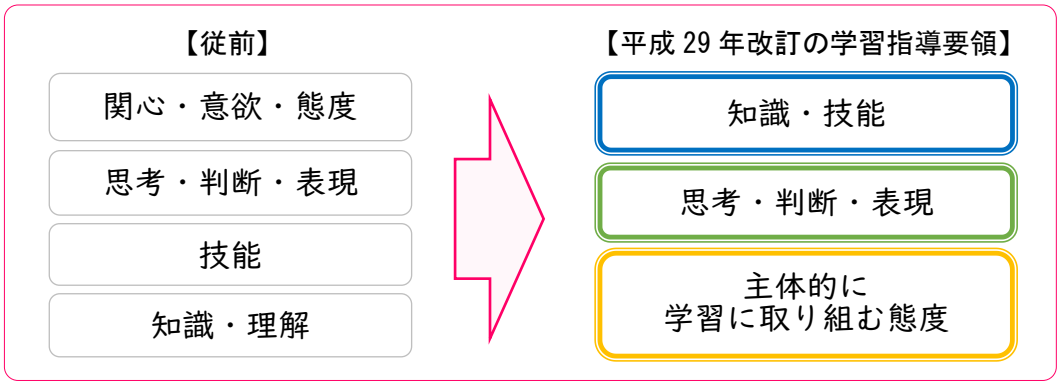
指導に生かす評価の場面は，随時存在します。児童生徒の学習状況を把握し，「おおむね満足できる」状況(Ｂ)以上になることを目指して，必要な指導を適宜行います。

記録に残す評価･････観点別学習状況の評価を総括する際の資料となるよう，学習状況を記録する評価のこと

記録に残す評価の場面は，毎時間設定する必要はありません。児童生徒全員の評価を記録に残す場面を精選することが重要です。単元や題材のまとまりの中で，評価規準に照らして，児童生徒の観点別学習状況を把握し，記録します。

2　学習評価の観点

学習指導要領では，各教科等の目標や内容が，育成を目指す資質・能力の三つの柱を基に整理されました。目標や内容の整理を踏まえ，小・中・高等学校の各教科を通じて，評価の観点も４観点から３観点に整理されました(下図参照)。



3　小学校外国語科の目標

学習指導要領において，全ての教科の目標は，(1)「知識及び技能」，(2)「思考力，判断力，表現力等」，(3)「学びに向かう力，人間性等」の三つの柱で整理されました。小学校外国語科の目標は次のとおりです。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動を通して，コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 外国語の音声や文字，語彙，表現，文構造，言語の働きなどについて，日本語と外国語との違いに気付き，これらの知識を理解するとともに，読むこと，書くことに慣れ親しみ，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。

(2) コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，身近で簡単な事柄について，聞いたり話したりするとともに，音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり，語順を意識しながら書いたりして，自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。

(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め，他者に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

知識及び技能

思考力，判断力，表現力等

学びに向かう力，人間性等　※

英語の目標及び各領域別の目標は，学習指導要領でご確認ください。

※(3)の「学びに向かう力，人間性等」には，①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることができる部分と，②観点別学習状況の評価や評定にはなじまず，こうした評価では示しきれない部分があるとされています。そのため，評価の観点は，「主体的に学習に取り組む態度」と示されています。

4　小学校外国語科における評価の観点及びその趣旨

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・外国語の音声や文字，語彙，表現，文構造，言語の働きなどについて，日本語と外国語との違いに気付き，これらの知識を理解している。 ・読むこと，書くことに慣れ親しんでいる。 ・外国語の音声や文字，語彙，表現，文構造，言語の働きなどの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。	・コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，身近で簡単な事柄について，聞いたり話したりして，自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 ・コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり，語順を意識しながら書いたりして，自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め，他者に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

5　小学校外国語科における観点ごとの評価のポイント

小学校外国語科における観点ごとの評価のポイントを以下に示します。

観点	評価のポイント
知識・技能	・学習指導要領「２　内容〔第５学年及び第６学年〕」の〔知識及び技能〕における「(1)　英語の特徴やきまりに関する事項」に記されていることを指しており，それらの事項を理解している状況を評価します。 ・「技能」については，**実際のコミュニケーションにおいて，知識を正しく活用している**状況を評価します。
思考・判断・表現	・学習指導要領「２　内容〔第５学年及び第６学年〕」の〔思考力，判断力，表現力〕における「(2)　情報を整理しながら考えなどを形成し，英語で表現したり，伝え合ったりすることに関する事項」に記されていることを指しており，それらの事項ができている状況を評価します。 ・**コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じた「表現内容の適切さ」**（内容面）を評価します。
主体的に学習に取り組む態度	・外国語の背景にある文化に対する理解を深め，他者に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている状況を評価します。 ・何度も話したり書いたりするなどの言語活動への取組に関して「**粘り強い取組を行おうとする側面**」と，自分の課題を解決するための方法を考えるなどの「**自らの学習を調整しようとする側面**」の２つの側面を合わせて児童の学習の様子を評価します。特定の領域，単元だけでなく，年間を通して行うことが大切です。

小学校外国語科における「内容のまとまり」は，次の５つの領域です。

「聞くこと」　「読むこと」　「話すこと[やり取り]」　「話すこと[発表]」　「書くこと」

小学校外国語科における内容のまとまりごとの「評価のポイント」，及び見取る際の「児童の具体的な姿（例）」については，以下をご確認ください。

【聞くこと】

観点	評価のポイント	児童の具体的な姿（例）
知識・技能	［知識］ ・英語の特徴やきまりに関する事項を理解している状況を評価します。 ［技能］ ・実際のコミュニケーションにおいて，自分のことや身近で簡単な事柄についての簡単な語句や基本的な表現，日常生活に関する身近で簡単な事柄についての具体的な情報を聞き取ったり，日常生活に関する身近で簡単な事柄についての短い話の概要を捉えたりする技能を身に付けている状況を評価します。	○教科書のリスニング活動で正しく解答している。 ○教師や音声教材の英語をまねて話している。 ○教師による短い英語の指示を聞いて，正しく従っている。（動作，返答，うなずき　など） など
思考・判断・表現	・コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，自分のことや身近で簡単な事柄についての簡単な語句や基本的な表現，日常生活に関する身近で簡単な事柄についての具体的な情報を聞き取ったり，日常生活に関する身近で簡単な事柄についての短い話の概要を捉えたりしている状況を評価します。	○教師の Small Talk を聞いて，概要や要点を捉えている。 ○友達の英語での発言を聞き取って，適切に反応している。　など
主体的に学習に取り組む態度	・コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，自分のことや身近で簡単な事柄についての簡単な語句や基本的な表現，日常生活に関する身近で簡単な事柄についての具体的な情報を聞き取ったり，日常生活に関する身近で簡単な事柄についての短い話の概要を捉えたりしようとしている状況を評価します。	○反応を示しながら最後まで聞こうとしている。 ○友達の話す英語を聞いて，それについての感想を振り返りシートに書いている。　など

【読むこと】

観点	評価のポイント	児童の具体的な姿（例）
知識・技能	［知識］ ・英語の特徴やきまりに関する事項を理解している状況を評価します。 ［技能］ ・実際のコミュニケーションにおいて，活字体で書かれた文字を識別し，その読み方(名称)を発音する技能を身に付けている状況や，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を読んで意味が分かっている状況を評価します。	○教師が言った名称のアルファベットの大文字や小文字を正しく選んでいる。 ○身近な物を表す語句を正しく読んでいる。 ○教科書の文を正しく読んでいる。 など
思考・判断・表現	・コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，活字体で書かれた文字を識別し，その読み方(名称)を発音している状況や，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を読んで意味が分かっている状況を評価します。	○身近な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから自分に必要な情報をつかんでいる。 など
主体的に学習に取り組む態度	・コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，活字体で書かれた文字を識別し，その読み方(名称)を発音しようとしている状況や，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を読んで意味を分かろうとしている状況を評価します。	○振り返りシートに，友達が英語で書いた内容についての感想を書いている。 など

【話すこと［やり取り］】

観点	評価のポイント	児童の具体的な姿（例）
知識・技能	［知識］ ・英語の特徴やきまりに関する事項を理解している状況を評価します。 ［技能］ ・実際のコミュニケーションにおいて，指示，依頼をしたり，それらに応じたりする技能を身に付けている状況，日常生活に関する身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを伝え合う技能や，自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について，その場で質問をしたり質問に答えたりして，伝え合う技能を身に付けている状況を評価します。	○やり取りの活動に向けた導入で教師の発言を理解している。 ○やり取りの活動に向けた練習場面において，簡単な語句や基本的な表現を適切に用いている。 など
思考・判断・表現	・コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，指示，依頼をしたり，それらに応じている状況や，日常生活に関する身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを伝え合っている状況，自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について，その場で質問をしたり質問に答えたりして，伝え合っている状況を評価します。	○やり取りの活動において，学習した表現を用い，会話が成立している。 ○誰に何を伝えるか考え，自分の言いたいことを選んで話している。 など
主体的に学習に取り組む態度	・コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，指示，依頼をしたり，それらに応じたりしようとしている状況や，日常生活に関する身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを伝え合おうとしている状況，自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について，その場で質問をしたり質問に答えたりして，伝え合おうとしている状況を評価します。	○相手に伝わるよう工夫しながら話している。 ○相手の言ったことを理解しようと注意深く聞いたり，確認の質問をしたりしている。 など

【話すこと［発表］】

観点	評価のポイント	児童の具体的な姿（例）
知識・技能	［知識］ ・英語の特徴やきまりに関する事項を理解している状況を評価します。 ［技能］ ・実際のコミュニケーションにおいて，日常生活に関する身近で簡単な事柄や自分のことについて話す技能を身に付けている状況や，身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている状況を評価します。	○教科書の問題において正しく解答している。 ○発表の活動に向けた練習場面において，簡単な語句や基本的な表現を適切に用いている。 など
思考・判断・表現	・コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常生活に関する身近で簡単な事柄や自分のことについて話している状況，身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを話している状況を評価します。	○同等の内容の羅列にならないよう，個別の内容について理由や説明などの肉付けを行っている。 など
主体的に学習に取り組む態度	・コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常生活に関する身近で簡単な事柄や自分のことについて話そうとしている状況，身近で簡単な事柄についての自分の考えや気持ちなどを話そうとしている状況を評価します。	○相手に伝わりやすいように工夫しながら話している。（話す速さ，身振り，表情，実物提示など） など

【書くこと】

観点	評価のポイント	児童の具体的な姿（例）
知識・技能	［知識］ ・英語の特徴やきまりに関する事項を理解している状況を評価します。 ［技能］ ・実際のコミュニケーションにおいて，大文字，小文字を活字体で書く技能を身に付けている状況や，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写したり，自分のことや身近で簡単な事柄について，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書いたりする技能を身に付けている状況を評価します。	○アルファベットの大文字や小文字のカードを正しく選んでいる。 ○アルファベットの大文字や小文字を，４線を意識して正しく書いている。 ○大文字や小文字，文字の間隔などに注意して，単語を正しく書き写している。 など
思考・判断・表現	・コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，大文字，小文字を活字体で書いている状況や，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写している状況，自分のことや身近で簡単な事柄について，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書いている状況を評価します。	○自分がしたことや，その時の自分の気持ちを表す英語を書き写したり，例に基づいて書いたりしている。 など
主体的に学習に取り組む態度	・コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，大文字，小文字を活字体で書こうとしている状況や，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写そうとしている状況，自分のことや身近で簡単な事柄について，音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書こうとしている状況を評価します。	○ポスターを作る活動において，読む人が読みやすいように丁寧に文字をなぞったり，例に基づいて書いたりしている。 など

6　小学校外国語科における学習評価の進め方

単元における観点別学習状況の評価の進め方（手順）は，基本的に次のような流れになります。観点別学習状況の評価を行う際は，下の進め方（手順）の前に，まず，学習指導要領の目標や内容を踏まえ，年間の指導と評価の計画を確認することが重要です。

手順	留意点
①単元の目標の作成	○　学習指導要領の目標や内容，学習指導要領解説等を踏まえて作成します。 ○　児童の実態や前単元までの学習状況，*CAN-DO リスト等を踏まえて設定します。 *小学校２年間の学習目標を，４技能（５領域）ごとに「(英語を用いて）～することができる」という文（能力記述文）で設定したもの。
②単元の評価規準の作成	○　単元の評価規準は，「参考資料」に示された「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を基に，単元の内容に合わせて作成します。 ○　観点別に，目指す児童の姿を具体的に考えます。
③「指導と評価の計画」の作成	○　①②を踏まえ，評価場面や評価方法等を計画します。 ○　どのような評価資料（児童の反応やパフォーマンスなど）を基に，「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり，「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりします。 ○　**逆向き設計（バックワードデザイン）**の考え方などを基に，目指す児童の姿をゴールとして，必要な題材や言語活動を考え，単元を組み立てます。 **逆向き設計（バックワードデザイン）の手順の例** 目指す児童の姿を明確化 → 単元ゴールの活動の決定（題材と言語活動の工夫） → 必要な活動をスモールステップで配置 → 活動同士のつながりや，ゴールに向けた目的を確認 ○　**児童が興味・関心をもつような題材**を扱い，**児童がやってみたいと思うような言語活動**を取り入れて，児童が主体的に学習に取り組み，学びを深められるような指導計画を創意工夫する必要があります。また，指導計画の中に，**児童が思考・判断・表現する場面**を具体的に設定します。 **外国語科における言語活動→目的や場面，状況を踏まえて，実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動** ○　児童の学習状況を見取り，児童の学習改善や，教師の指導改善につなげるために，各時における評価規準を示します。また，記録に残す評価を行う場面とその評価規準，及び判定基準を明確にしておく必要があります。
授業・評価	授業実践を行います。③に沿って観点別学習状況の評価を行い，児童の学習改善や教師の指導改善につなげます。
④観点ごとの総括	○　集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから，観点ごとの記録に残す評価（A，B，C）を行います。
○評定への総括※	○　観点別学習状況の評価の評定への総括は，各観点の評価結果をA，B，Cの組合せ，又は，A，B，Cを数値で表したものに基づいて総括します。

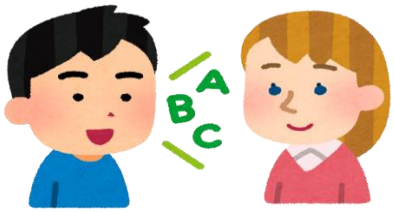
目標と評価の関係から外国語科の５つの領域を３つの観点で評価することを考えると，以下のような３×５の表（太枠内）で表すことができます（**表１**）。

表１　「評定につなげる評価のイメージ」（例）

領域 観点	聞くこと	読むこと	話すこと ［やり取り］	話すこと ［発表］	書くこと	観点別評価	評定
知識・技能	A	B	A	A	B	A	2
思考・判断・表現	A	B	B	B	C	B	
主体的に学習に取り組む 態度	A	B	B	B	B	B	

年度末に指導要録に「観点別評価」と「評定」を記入するために，**表１**の太枠内の評価を全て行う必要があります。一方で，年間を通じて全ての評価の結果がそろっていればよいので，単元ごとに全ての領域・観点について記録に残す評価を行う必要はありません。

留意すべきことは，３観点のバランスを欠いた評価にならないようにしなければならない点です。そのため，指導と評価の計画を立てる段階から，年間や学期，あるいは単元の中でどのようなバランスで評価を位置付けるか考えることが大切です。



7　小学校外国語科における学習評価の事例

事例１　キーワード…「聞くこと」「話すこと［やり取り］」における評価，指導の計画から評価の総括まで

単元名

Junior Sunshine 6 Lesson 3

Where do you want to go?

ツアープランナーになろう。

（第６学年）

関係する領域別目標

「聞くこと」

イ　ゆっくりはっきりと話されれば，日常生活に関する身近で簡単な事柄について，具体的な情報を聞き取ることができるようにする。

「話すこと［やり取り］」

ウ　自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして，伝え合うことができるようにする。

「書くこと」

ア　大文字，小文字を活字体で書くことができるようにする。

１　単元の目標

自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために，おすすめの国とその理由について，具体的な情報を聞き取ったり，それらについて尋ねたり答えたりして伝え合ったりすることができる。また，例文を参考に文を読んだり，書いたりすることができる。

※なお，本単元における「書くこと」については，目標に向けて指導は行うが，記録に残す評価は行わない。

２　単元の評価規準（「聞くこと」「話すこと［やり取り］」に焦点を当てて）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	＜知識＞ Where do you want go?　You can ～.　It's ～.などの表現，及びその関連語句などについて理解している。 ＜技能＞ おすすめの国とその理由について，具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。	相手のことをよく知るために，おすすめの国とその理由について，具体的な情報を聞き取っている。	相手のことをよく知るために，おすすめの国とその理由について，具体的な情報を聞き取ろうとしている。
話すこと［やり取り］	＜知識＞ Where do you want go?　You can ～.　It's ～.などの表現，及びその関連語句などについて理解している。 ＜技能＞ 国名やおすすめの国とその理由について，Where do you want go?　You can ～.　It's ～.などの表現，及びその関連語句などを用いて，その場で尋ねたり答えたりして，伝え合う技能を身に付けている。	自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために，おすすめの国とその理由について，簡単な語句や基本的な表現を用いて，尋ねたり答えたりして伝え合っている。	自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために，おすすめの国とその理由について，簡単な語句や基本的な表現を用いて，尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。

３　言語材料

〇表現

Where do you want to go?　I want to go to～.　Why?　I want to see/ eat ～.　You can see/ eat ～.

～ is nice.　It's ～.　Welcome to ～.

〇語彙　・国名　Italy,　the U.S.A.,　Australia,　China,　Brazil,　India,　Egypt,　the U.K.　など

・感想　delicious,　fun,　exciting,　beautiful,　great など

4　単元の指導と評価の計画（全７時間）

時	活動名と目標（◆）	主な活動の具体	知技	思判表	態度	評価規準《評価方法》 観：観察，ワ：ワークシート，ふ：振り返りシート
1	**どんな国があるのかな？１** ◆国名を聞いたり言ったりすることができる。	○担任のおすすめの国紹介を聞き，単元のテーマを理解する。 ○チャンツやゲームを通して，国名の言い方を知り，練習する。 ※単元末の活動を児童に伝え，見通しと期待をもたせる。				本時では，記録に残す評価を行わないが，指導に生かす評価は適宜行う。
2	**どんな国があるのかな？２** ◆行きたい国を尋ねたり答えたりする言い方を知る。	○世界の有名なものを見て，どの国のものかを考える。 ○チャンツやゲームを通して，行きたい国を尋ねたり答えたりする言い方を知り，練習する。				本時では，記録に残す評価を行わないが，指導に生かす評価は適宜行う。
3	**どの国に行きたい？１** ◆行きたい国とその理由を聞き取り，それらについて尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。	○インタビューを聞き，それぞれの人と行きたい国を線で結ぶ。 ○担任やALTが行きたい国についての話を聞く。 ○インタビュービンゴを通して，行きたい国について尋ねたり答えたりする。	聞			・担任やALTが行きたい国とその理由について具体的な情報を聞き取っている。 《観・ワ・ふ》 評価例 p.10
4	**どの国に行きたい？２** ◆相手のことをよく知るために，行きたい国とその理由について，具体的な情報を聞き取り，それらについて尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。	○行きたい国とその理由（見たいものや食べたいもの）を尋ね合う。		聞	聞	・相手のことをよく知るために，行きたい国とその理由について，具体的な情報を聞き取っている／聞き取ろうとしている。 《観・ワ・ふ》
5	**おすすめのツアープランを作ろう！** ◆ツアープランナーの話を参考にして，おすすめの国についてツアープランを作ることができる。	○ツアープランナーの話を聞いて，分かったことを書く。 ○社会科地図帳などを使いながら，行きたい国とその理由について調べ，ツアープランを作ることができる。				本時では，記録に残す評価を行わないが，指導に生かす評価は適宜行う。
6	**おすすめのツアープランを伝え合おう！** ◆ツアープランナーの話を参考にして，おすすめのツアープランを伝え合うことができる。	○ツアープランナーの話を聞いて，おすすめの国を紹介する言い方を確認する。 ○行きたい国とその理由を基に，おすすめのツアープランをペアで伝え合う。	や			・行きたい国とその理由について，基本的な表現を用いて，その場で尋ねたり答えたりして，伝え合う技能を身に付けている。 《観・ワ・ふ》
7	**おすすめのツアープランを紹介しよう！** ◆自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために，ツアープランナー役と客役になって，おすすめの国や行きたい国について尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。	○ツアープランナー役と客役に分かれ，おすすめのツアープランを紹介し合う。 ○自分ならどの国に行きたいと思ったかを話し合う。		や	や	・自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために，おすすめの国とその理由を紹介したり，行きたい国について，尋ねたり答えたりして伝え合っている／伝え合おうとしている。 《観・ワ・ふ》 評価例 p.12

５　第３時「聞くこと」の指導と評価の実際

(1)　目標

行きたい国とその理由を聞き取ったり，それらについて尋ねたり答えたりして伝え合ったりすることができる。

(2)　展開

時間	児童の活動	指導上の留意点（○）　評価規準（◇） 配慮を要すると判断した児童への指導（●）	準備物
7	1　Small Talk をする。	○事前にデモンストレーションを行い，好きな国とその理由を尋ね合う表現を確認する。 HRT: ○○sensei, do you like Australia? ALT: Yes, I do. HRT: Why? ALT: I like koalas. HRT: Me, too!　（尋ね役と聞き役を交代する）	
3	2　今日の目標を確認する。	**行きたい国と，その国で見たいものや食べたいものを聞き取ろう。**	
10	3　インタビューを聞いて，人物と行きたい国を表す写真を線で結ぶ。	○行きたい国とその理由に注目して聞くよう促す。	デジタル教科書
10	4　担任や ALT が行きたい国についての話を聞き，分かったことを日本語で書く。	Hello, everyone. Where do you want to go? I want to go to the U.S.A. I want to see baseball games. I want to see the Statue of Liberty. And, I want to eat big hamburgers and big steaks. **◇担任や ALT が行きたい国とその理由について，具体的な情報を聞き取っている。（知識・技能）《観・ワ》**	ワークシート
12	5　インタビュービンゴをする。	●再度聞く前に，注目して聞くべき箇所を確認する。 ○アイコンタクトやはっきりした声を意識し，相手に分かりやすく尋ねたり答えたりするよう促す。	
3	6　振り返りシートに記入する。	○聞き取る際に難しいと思ったことを書くよう促し，事後の指導に生かす。	振り返りシート

(3)　「聞くこと」（知識・技能）の評価例（第３時）

評価場面	担任や ALT が行きたい国とその理由についての話を聞く活動
評価方法	行動観察，ワークシート記述分析
判定基準 a:十分満足できる b:おおむね満足できる c:努力を要する	「聞くこと」（知識・技能） a　担任や ALT が行きたい国とその理由を全て正しく記入している。 b　担任や ALT が行きたい国とその理由をおおよそ正しく記入している。 c　「ｂ」を満たしていない。

事前の手立て	・前時までに，国名とそれぞれの国で見られるものや食べられるものについての語句や表現に十分慣れ親しませておきます。 ・行きたい国とその理由を尋ね合う活動の中で，see と eat の後に続く語句に注目することを確認しておきます。
評価例	**児童１のワークシート** 国名　（アメリカ　） 見たいもの　（野球，自由の女神　） 食べたいもの（大きなハンバーガーとステーキ） **児童２のワークシート** 国名　（USA　） 見たいもの　（野球の試合，自由の女神　） 食べたいもの　（ハンバーガー　） **児童３のワークシート** 国名　（イギリス　） 見たいもの　（リバティー　） 食べたいもの（ハンバーガー　） 【児童１】 ・既習語句の big を含め，全ての項目を正しく記入していました。 **⇒（知識・技能）で「十分満足できる」状況(a)と判断しました。** 【児童２】 ・「食べたいもの」の項目にはハンバーガーしか書かれていませんでした。また，big についての情報も書かれていませんが，全ての項目はおおよそ聞き取れていました。 **⇒（知識・技能）で「おおむね満足できる」状況(b)と判断しました。** 【児童３】 ・国名を間違って聞き取っていました。また，「見たいもの」，「食べたいもの」の項目についても，聞き取れなかったものが複数ありました。 **⇒（知識・技能）で「努力を要する」状況(c)と判断しました。**
事後指導	・児童３について，本活動以降も学習改善につながる手立てを継続しました。例えば，文の中における語句の並びを絵カードで考えたときに，文によって変わるカードと変わらないカードがあることに着目させ，聞き取るべき言葉に注目できるよう支援しました。また，あきらめずに聞こうとする粘り強い姿は見られたので，随時指導に生かす評価を行いながら，何が聞き取れて何が聞き取れないのか振り返ることで自分の苦手を把握するなど，自分の学習を調整しながら活動するよう励ましました。 ・本活動以降，モデルとなる会話を聞かせる場面を繰り返し設け，聞き取りが上達したことを具体的に褒めながら伝えました。

(4)　本単元における「聞くこと」における評価の総括

評価観点	知識･技能		思考･判断･表現		主体的に学習に取り組む態度	
評価場面	第３時 担任や ALT が行きたい国とその理由についての話を聞く活動	本単元の評価	第４時 行きたい国とその理由について，尋ねたり答えたりして伝え合う活動	本単元の評価	第４時 行きたい国とその理由について，尋ねたり答えたりして伝え合う活動	本単元の評価
評価規準	担任や ALT が行きたい国とその理由について，具体的な情報を聞き取っている。		相手のことをよく知るために，行きたい国とその理由について，具体的な情報を聞き取っている。		相手のことをよく知るために，行きたい国とその理由について，具体的な情報を聞き取ろうとしている。	
児童１	a	A	a	A	a	A
児童２	b	B	b	B	b	B
児童３	c	C	b	B	b	B

６　第７時「話すこと[やり取り]」の指導と評価の実際

(1)　目標

自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために，ツアープランナー役と客役になって，おすすめの国や行きたい国について尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。

(2)　展開

時間	児童の活動	指導上の留意点（○）　評価規準（◇） 配慮を要すると判断した児童への指導（●）	準備物
4	1　歌を歌う。 2　チャンツをする。	○緊張している児童もいるので，歌やチャンツで雰囲気を和ませるとともに，基本表現を確認する。	
3	3　今日の目標を確認する。	**ツアープランナーになって，おすすめのツアープランを紹介し合おう。**	
3	4　発表の準備や注意事項の確認をする。	○ペア練習をし，自分が伝えることを確認するよう促す。 ○机の配置を変えて，旅行代理店らしい雰囲気を出し，児童の意欲を喚起する。 ツ：ツアープランナー役，客：客役	ポスター ワークシート
20	5　ツアープランナー役はポスターを用いながらおすすめの国を紹介する。 客役は，ツアープランナー役の店を回り，おすすめの国の紹介を聞く。	ツ：Hello.　Welcome to SMILE Tour! 客：Hello. ツ：Where do you want to go?（2カ国のポスターを見せながら） 客：Well... I want to go to Italy. ツ：Italy is nice!　You can see the Colosseum.　It's big. You can eat pizza.　It's delicious. Here you are.（パンフレットを渡す） 客：Thank you.　See you! ツ：Thank you.　Have a nice trip! ○紹介してもらったことで行ってみたくなった国名をワークシートに書くよう指示する。 ○役を交代する際に，よかった点や改善すべき点を全体で確認する（中間評価）。 ●ペアで活動することで，言葉が出てこないなど困った際には，お互いに助言し合うようにする。 **◇自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために，ツアープランナー役と客役になって，おすすめの国や行きたい国について尋ねたり答えたりして伝え合っている／伝え合おうとしている。（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）《観・ワ・ふ》**	
10	6　話を聞いて，どの国に行きたいと思ったかを話し合う。	○驚いたことや新しく気付いたことなどに注目するよう，助言する。	
5	7　振り返りシートに記入する。	○伝えるときに工夫したことや，友達への新たな気付きなどの児童の振り返りを取り上げ，全体で共有する。	振り返りシート

(3)　「話すこと［やり取り］」（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）の評価例（第７時）

<table>
<tr><td>評価場面</td><td>ツアープランナー役と客役になって，おすすめの国や行きたい国について尋ねたり答えたりして伝え合う活動</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td>行動観察，ワークシート記述分析，振り返りシート記述分析</td></tr>
<tr><td>判定基準

a：十分満足できる
b：おおむね満足できる
c：努力を要する</td><td>「話すこと［やり取り］」（思考・判断・表現）／（主体的に学習に取り組む態度）
<table>
<tr><td>a</td><td>ツアープランナー役と客役になって，おすすめの国や行きたい国について，基本的な語句や表現だけでなく，既習の語句や表現を用いたり詳しい情報を付け加えたりするなど，より分かりやすく伝えるための工夫をして，尋ねたり答えたりして伝え合っている／伝えようとしている。</td></tr>
<tr><td>b</td><td>ツアープランナー役と客役になって，おすすめの国や行きたい国について，基本的な語句や表現を用いて，尋ねたり答えたりして伝え合っている／伝えようとしている。</td></tr>
<tr><td>c</td><td>「b」を満たしていない。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>事前の
手立て</td><td>・本時までに，場面設定のある短い会話の中から，知っている言葉や状況を手掛かりに内容を推察させたり，身に付けさせたい表現を繰り返し聞かせたりする活動を意識して授業の中に取り込み，無理なく英語表現が定着するようにしました。
・ポスターには，see と eat を表す絵カードに続けて，その国で見たり食べたりすることができるものの写真を組み合わせ，伝える際の視覚的支援としました。
・ポスターを用いながら，前時にペアでしっかりと練習する時間を取りました。</td></tr>
<tr><td>評価例</td><td>【児童４】
・本単元で学習した語句や表現だけでなく，big や white などの既習の語句を付け加えて自分が伝えたいことを詳しく話していました。
・タージ・マハルの大きさを伝えようと，ジェスチャーを加えて話していました。
・聞き手の理解を確認したり，聞き手の意識を引いたりするために，”Do you know Taj Mahal?” や ”Do you like curry?” と，問い掛けていました。
・客役のとき，相手が話したことが聞き取れなかった際には，”One more,　please.” と頼み，相手の話を粘り強く聞こうとしていました。
・振り返りシートに以下のように書かれていたため，友達の意見を踏まえて改善点を見いだすという自己調整を行いながら，自分が伝えたいことがより詳しくなるよう粘り強く考え，表現しようとしていたと判断しました（波線部）。

わたしは，ペアでツアープランの練習をしたとき，「タージ・マハルについて，もっとくわしく伝えた方がいいんじゃないかな。」と言われました。だから今日は，とても大きくて白い建物だという説明を加え，建物がある場所を地図に指さしながら話したら，お客さんがぜひ行ってみたいと言ってくれました。

⇒（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）において「十分満足できる」状況(a)と判断しました。

【児童５】
・既習の表現や詳しい情報の付け加えは見られませんでした。
・前時では，おすすめの理由を正しく言えなかったり，途中で止まったりしていました。しかし，友達の助言を聞きながらペア練習に意欲的に取り組み，それらの課題を粘り強く解決しようとしていました。その後の活動では，少し言葉に詰まることはありましたが，自分の言いたいことを相手に伝わるように話していました。</td></tr>
</table>

	・既習の表現を用いたり詳しい情報を付け加えたりはしませんでしたが，アイコンタクトやジェスチャーを意識して自分なりに分かりやすく伝えようとしていました。 ・振り返りシートには以下のように書かれており，粘り強く取り組んでいる様子や，相手のことをよく知るためにコミュニケーションを図ろうとする意欲が見られました（波線部）。 うまく言えるか自信がなかったので，〇〇さんとたくさん練習しました。本番では，上手に言えたと思います。そして，いろいろなお店に行くのも楽しかったです。お客さんになって，できるだけたくさんの国を知ろうとがんばりました。 **⇒（思考・判断・表現）において「おおむね満足できる」状況(b)，（主体的に学習に取り組む態度）において「十分満足できる」状況(a)と判断しました。** 【児童６】 ・言葉に詰まるところがありましたが，聞き手に伝わる声の大きさで話していました。 ・本単元で学習した語句や表現を使って話していましたが，既習の表現や詳しい情報の付け加えは見られませんでした。 ・客役のとき，相手がおすすめしたツアープランの内容を聞き取り，自分の行きたい国を答えていました。 ・振り返りシートには以下のように書かれており，基本的な語句や表現を使って伝え合おうとしていると判断しました（波線部）。 ぼくは，アメリカのツアープランを上手に紹介することができました。きちんと伝わってよかったです。友達からたくさんの国を紹介してもらいました。ぼくは，ボリビアに行ってみたいです。ウユニ塩湖を見てみたいと思いました。 **⇒（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）において「おおむね満足できる」状況(b)と判断しました。**
事後指導	・次の単元以降も，Small Talk など，児童が既習語句や表現を十分使う機会を与え，自信をもって話す態度を養い，それらが定着するよう指導を継続します。 ・本時で「十分満足できる」状況(a)と判断した児童のやり取りの様子については，よい例として学級全体で共有し，今後の学習につなげます。

(4)　本単元における「話すこと［やり取り］」における評価の総括

評価観点	知識･技能		思考･判断･表現		主体的に学習に取り組む態度	
評価場面	第６時 行きたい国とその理由を尋ね合う活動	本単元の評価	第７時 ツアープランナー役と客役になって，おすすめの国や行きたい国について尋ねたり答えたりして伝え合う活動	本単元の評価	第７時 ツアープランナー役と客役になって，おすすめの国や行きたい国について尋ねたり答えたりして伝え合う活動	本単元の評価
評価規準	行きたい国とその理由について，基本的な表現を用いて，その場で尋ねたり答えたりして伝え合う技能を身に付けている。		自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために，おすすめの国や行きたい国について，尋ねたり答えたりして伝え合っている。		自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために，おすすめの国や行きたい国について，尋ねたり答えたりして伝え合おうとしている。	
児童４	a	A	a	A	a	A
児童５	b	B	b	B	a	A
児童６	b	B	b	B	b	B

事例２　キーワード…「話すこと［発表］」の評価

単元名	関係する領域別目標
Junior Sunshine 5 Lesson 6 My Hero あこがれの人を しょうかいしよう。 （第５学年）	「聞くこと」 ウ　ゆっくりはっきりと話されれば，日常生活に関する身近で簡単な事柄について，短い話の概要を捉えることができるようにする。 「読むこと」 イ　音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。 「話すこと［発表］」 ウ　身近で簡単な事柄について，伝えようとする内容を整理した上で，自分の考えや気持ちなどを，簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 「書くこと」 ア　大文字，小文字を活字体で書くことができるようにする。

１　単元の目標

自分のことをよく知ってもらったり相手のことをよく知ったりするために，あこがれの人について，短い話の概要を捉えたり，伝えようとする内容を整理した上で，話したりすることができる。また，アルファベットの活字体の大文字・小文字を書くことができる。

※なお，本単元における「話すこと［発表］」以外の領域については，目標に向けて指導は行うが，本単元内で記録に残す評価は行わない。

２　単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと［発表］	＜知識＞ He/ She is ～. be good at ～. など，職業や性格，得意なことなどを表す表現について理解している。 ＜技能＞ あこがれの人について，He/ She is ～. be good at ～.などの表現を用いて，職業や性格，得意なことなどを話す技能を身に付けている。	自分のことをよく知ってもらうために，あこがれの人について，職業や性格，得意なことなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて話している。	自分のことをよく知ってもらうために，あこがれの人について，職業や性格，得意なことなどを簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとしている。

３　言語材料

○表現

He/ She is～.　He/ She can ～.　be good at ～.

【既出】　I can/ can't ～.　Can you ～?

○語彙

【既出】　動作　play soccer/ basketball/ table tennis　swim,　dance など

4　単元の指導と評価の計画（全６時間）

時	活動名と目標（◆）	主な活動の具体	知技	思判表	態度	評価規準《評価方法》 観：観察，ワ：ワークシート，ふ：振り返りシート
1	**あこがれの人についての話を聞こう** ◆あこがれの人について紹介する表現の仕方が分かる。	○担任のあこがれの人の紹介を聞き，単元のテーマを理解する。 ○チャンツやゲームを通して，あこがれの人を紹介する言い方を知り，練習する。 ※単元末の活動を児童に伝え，見通しと期待をもたせる。				本時では，記録に残す評価を行わないが，指導に生かす評価は適宜行う。
2	**友達ができることをしょうかいしよう** ◆できることについて尋ねたり，第三者の紹介をしたりすることができる。	○教師の話を聞いて，第三者ができることの紹介の仕方を知る。 ○友達ができることを尋ね，他の人に紹介する。	発			・友達について，He/ She can ～.を用いて，できることを話している。《観・ワ・ふ》
3	**だれかが得意なことをしょうかいしよう** ◆得意なことについて尋ねたり，紹介したりすることができる。	○デジタル教材を視聴して，第三者が得意なことを尋ねたり，紹介したりする仕方を知る。 ○第三者が得意なことを，他の人に紹介する。	発			・第三者について，be good at ～.を用いて，得意なことを話している。《観・ワ・ふ》
4	**自分のあこがれの人について考えよう** ◆自分のあこがれの人とその理由について考え，発表のための原稿を書くことができる。	○あこがれの人を紹介するデジタル教材を視聴して，話していた内容に〇をつける。 ○自分のあこがれの人とその理由について考え，発表のための原稿を書く。				本時では，記録に残す評価を行わないが，指導に生かす評価は適宜行う。
5	**自分のあこがれの人をしょうかいする準備をしよう** ◆自分のあこがれの人を紹介するためのポスターを作り，ペアで伝え合うことができる。	○担任のあこがれの人の紹介を聞き，聞く人に分かりやすく伝えるための工夫を考える。 ○自分のあこがれの人を発表するときに見せるポスターを作る。 ○ペアで発表練習をする。				本時では，記録に残す評価を行わないが，指導に生かす評価は適宜行う。
6	**自分のあこがれの人をしょうかいしよう** ◆自分のあこがれの人とその理由を紹介することができる。	○自分のあこがれの人についての発表会をする。 ○友達の発表を聞いて，気付いたことや思ったことを発表する。		発	発	・自分のあこがれの人をよく知ってもらうために，職業や性格，得意なことなどについて，自分の考えや気持ちなどを含めて話している／話そうとしている。《観・ワ・ふ》

評価例 p.17

５　第６時「話すこと［発表］」の指導と評価の実際

(1)　目標

自分のあこがれの人をよく知ってもらうために，職業や性格，得意なことなどについて，自分の考えや気持ちなどを含めて話すことができる。

(2)　展開

時間	児童の活動	指導上の留意点（○）　評価規準（◇） 配慮を要すると判断した児童への指導（●）	準備物
4 5	1　歌を歌う。 2　チャンツをする。 3　Small Talk をする。	○歌やチャンツでリラックスした雰囲気を作り出すとともに，基本的な表現について確認する。 ○以前話をした指導者のあこがれの人について質問をすることで，本時の発表で必要な表現を確認する。 Who is my hero?　Do you remember?　Yes, my hero is Toyoda Yohei.　Who is he?　Yes, he is a soccer player. Do you like soccer?　I like soccer very much.　What is he good at?　Yes, he is very good at heading.　Ha can run fast.　He is very strong.　He is my hero.	電子黒板
3	4　今日の目標を確認する。	**自分のあこがれの人をしょうかいしよう。**	
3	5　発表の準備をする。	○ペアやグループで発表の練習をし，個別に助言を与える。 ○模範を示し，ペアでお互いに尋ね合いながら発表することを確認する。	発表カード
25	6　発表会を行う。	HRT：Who is your hero? ALT：This is my father.（ポスターを見せながら） He is good at soccer. He is very kind. He is my hero. HRT：Oh, I see. Thank you. ALT：Who is your hero? HRT：My hero is... ●表現が分からないときは，ペアの児童が教えてもよいこととし，安心して発表できる環境を整える。 **◇自分のあこがれの人をよく知ってもらうために，職業や性格，得意なことなどについて，自分の考えや気持ちなどを含めて話している／話そうとしている。（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）《観・ワ・ふ》**	ワークシート
5	7　振り返りシートに記入する。	○伝えるときに工夫したことや，友達への新たな気付きなどの児童の振り返りを取り上げ，全体で共有する。 ○児童の頑張りを褒め，本時の目標が達成できたか確認する。	振り返りシート

(3)　「話すこと［発表］」（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）の評価例（第６時）

<table>
<tr><td>評価場面</td><td>自分のあこがれの人についての発表する活動</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td>行動観察，ワークシート記述分析，振り返りシート記述分析</td></tr>
<tr><td>判定基準

a:十分満足できる
b:おおむね満足できる
c:努力を要する</td><td>「話すこと［発表］」（思考・判断・表現）／（主体的に学習に取り組む態度）
<table>
<tr><td>a</td><td>自分のあこがれの人をよく知ってもらうために，職業や性格，得意なことなどについて，基本的な表現だけでなく既習の表現も用いて，聞き手に伝わるように工夫しながら，自分の考えや気持ちなどを含めて話している／話そうとしている。</td></tr>
<tr><td>b</td><td>自分のあこがれの人をよく知ってもらうために，職業や性格，得意なことなどについて，自分の考えや気持ちなどを含めて話している／話そうとしている。</td></tr>
<tr><td>c</td><td>「ｂ」を満たしていない。</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>事前の手立て</td><td>・前時までに，He/ She is ～.や be good at ～.などの表現がしっかりと定着するように，聞く活動や友達同士でやり取りする活動を十分に取り入れる。
・話したいことを整理して原稿を作成することができるように，ワークシートを用意する。</td></tr>
<tr><td>評価例</td><td>【児童７の発表】
This is Mr. Miyagi.
He is <u>my</u> karate teacher.　（自分との関係性）
He is <u>good</u> at karate.　（ジェスチャー）
He is <u>very strong</u>!　（強勢）
He can cook very well.　（追加情報）
Do you like cooking?　（既習表現＋相手意識）
He is my hero.
Thank you.

・本単元で学習した表現以外に，既習表現を用いるなどして，より詳しく紹介しようとしていました。発表原稿にも試行錯誤の跡が見られました。
・ジェスチャーを入れたり言葉に強勢を入れたりして，より分かりやすく伝えようとしていました。
・聞き手に問い掛けることで，相手意識の高い発表となっていました。
・振り返りシートには，以下のように書かれており，聞き手に伝わるように発表内容をたびたび修正し，内容や話し方を工夫していることが裏付けられました。学習に関する自己調整を行いながら，粘り強く表現しようとしていました（波線部）。

ぼくは，ぼくが大好きな宮城先生について，<u>できるだけみんなに知ってもらうために</u>，空手が上手で強いだけではなくて，料理もできるということも伝えました。文が多くておぼえるのがたいへんだったけど，<u>何回も練習して言えるようになりました</u>。友達にも，いろいろなあこがれの人がいておもしろかったです。

⇒（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）において「十分満足できる」状況(a)と判断しました。</td></tr>
</table>

【児童８の発表】

Hello.　※モデル文と同じ表現
This is Mima Ito.
She is a table tennis player.
She is good at table tennis.
She is my hero.
Thank you.

・アイコンタクトや声の大きさを意識していましたが，基本的な表現に留まり，既習の表現を用いていませんでした。聞き手に伝えるための工夫としては不十分でした。
・効果的なジェスチャーを交えて話すことはできていませんでした。
・振り返りシートには，以下のように書かれており，今後の活動の具体的な見通しをもっていることが分かりました（波線部）。

わたしは伊藤美誠選手について発表しました。ちょっときんちょうしたけど，上手に言えてよかったです。〇〇さんは，「～は好きですか。」と，発表の中に質問を入れていて，すごいと思いました。私も次はしてみたいです。

⇒（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）において「おおむね満足できる」状況(b)と判断しました。

【児童９の発表】

Hello.
This is my father.
She いや He... carpenter.（言いよどみ，不完全な文）
Do you know carpenter?
（とっさの判断, 既習表現＋相手意識, ジェスチャー）
He can baseball.　（不完全な文）
He is my hero.
Thank you.

・言いよどみや不完全な文もありましたが，とっさに原稿にはない表現やジェスチャーを使って，相手の理解を確かめていました。
・He can baseball.は，文法的に不完全な文ですが，自分の考えは話していました。

・振り返りシートには，以下のように書かれており，自分なりに粘り強く取り組んだことが分かりました。今回の発表でうまくできなかったことを今後の自分の学習に生かそうとするなど，学習を調整しようとする態度が見られました（波線部）。

わたしは，□□さんに聞いてもらいながら何度も練習したけど，ちょっと失敗してしまいました。でも，他の人の発表がたくさん聞けてうれしかったです。次は，スラスラ言えるように，チャンツなどをがんばりたいです。

⇒（思考・判断・表現）（主体的に学習に取り組む態度）において「おおむね満足できる」状況(b)と判断しました。

事後指導	・次単元以降においても，Small Talk のテーマとして三人称単数や can，be good at ～.などの表現を積極的に取り上げ，継続して使う機会を設けます。 ・児童９については，主語＋動詞，又は主語＋can＋動詞という語順がきちんと定着していなかったと思われます。今後も，絵カードを黒板に掲示しながら，語順を意識できるよう継続して支援します。

8　学習評価の進め方Ｑ＆Ａ

Ｑ１　毎時間，必ず評価しなければならないのですか。

Ａ１　毎回の授業において，記録に残す評価を行う必要はありません。単元などのまとまりの中で，記録に残す評価を行う場面を精選しましょう。

　また，指導に生かす評価は，児童の学習状況を把握し，評価し，修正し，次の指導に生かすことが主眼となりますので，適宜行う必要があります。児童に学習状況を伝え，児童自身が学習調整力を身に付けていくために用いるだけでなく，教師が自身の指導を振り返るという点においても重要となります。さらに，顕著によい側面があった場合には，記録に残す評価の一部とすることも考えられます。

　ただし，評価に集中するあまり，指導が疎かにならないように留意しましょう。

Ｑ２　行動観察や振り返りシート記述分析以外には，どのような評価方法がありますか。

Ａ２　外国語科では，様々な言語活動を通して語彙や表現に慣れ，状況に合ったコミュニケーションが図られるようになっているかを適切かつ多様な方法を通して評価していくことが重要です。以下にその一例を紹介します。

○パフォーマンス評価：スピーチや Show and Tell など，個人やグループなどでの発表（パフォーマンス）を評価する
○記述分析：ワークシートや教科書への記述を分析し，評価する
○作品分析：カードやポスターなどの作成物を分析，評価する
○インタビュークイズ：教師や ALT の質問にどの程度答えることができるかを確認し，評価する
○ペーパーテスト：授業で学習したことを確認し，評価する

Ｑ３　振り返りシートはどのようなものがよいのでしょうか。

Ａ３　振り返りシートの内容や形式には様々なものが考えられますが，教師が児童の学習状況を把握するために，振り返りシートの記載事項は意図的である必要があります。また，記入する際に，児童が振り返るべきポイントを教師が確認しながら進めることで，評価に適切な記述を得ることができると思われます。さらに，記録に残す評価だけでなく，指導に生かす評価にも活用できるように，学級や児童に適したものになるよう工夫する必要があります。

例えば，できたことや知ったこと，今度努力したいことなどを自由に記述させ，その記述内容を判定基準と照らし合わせ，評価していくという方法があります。特に，（主体的に学習に取り組む態度）を評価する際に必要となります。

振り返りシート例（一部のみ）

○　今日できたことや分かったこと，今度がんばりたいことなどを書きましょう。

また，次のように細かく項目を設けてもよいでしょう。

振り返りシート例（一部のみ）

○　なりたい職業をたずねたり答えたりする言い方が分かりましたか。

○　なりたい職業について，たずねたり答えたりすることができましたか。

○　なりたい職業を友達に分かりやすく伝えようとしましたか。

○　今日できたことや分かったこと，今度がんばりたいことなどを書きましょう。

参考文献

・文部科学省　『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　外国語・外国語活動』　令和２年　東洋館出版社

・文部科学省　『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説外国語活動・外国語編』平成 30 年　開隆堂

・文部科学省　『小学校外国語活動・外国語　研修ガイドブック』　平成 29 年

・佐賀県教育委員会　『小学校外国語の学習評価に関する資料』　令和２年

・瀧沢　広人著　『小学校外国語活動＆外国語の新学習評価ハンドブック』　2020 年　明治図書

・菅　正隆編著　『小学校外国語　新観点の評価づくり完全ガイドブック』　2020 年　明治図書

・池田　勝久編　『小学校英語「５領域」評価事例集』　2020 年　教育開発研究所

・東京出版　『「NEW HORIZON Elementary」における評価の考え方について』2020 年
https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/ten_download/2020/2020024011/2020024011-01.pdf

・教育出版　『ルーブリックを含む評価事例　６年 Lesson 3「話すこと［発表］」「書くこと」』
https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/2020shou/eigo/files/r2eigo6_rubric_2007.pdf

・小学校英語評価研究会　『小学校英語 Can-Do 及びパフォーマンス 評価尺度活用マニュアル～思考力・判断力・表現力及び学びに向かう力評価試案』　平成 31 年
http://izumi-lab.jp/dl/easel_010.pdf

・新潟県立教育センター　『小学校外国語科 CAN-DO リストを活用したバックワードデザインによる授業づくりパンフレット』
https://www.nipec.nein.ed.jp/subject/gaikokugo/1elementary/brochure/es-brochure.pdf

・アレン玉井　光江　ほか　『NEW HORIZON Elementary 5』　令和２年　東京出版

・アレン玉井　光江　ほか　『NEW HORIZON Elementary 6』　令和２年　東京出版

・萬谷　隆一　ほか　『Junior Sunshine 5』　令和２年　開隆堂

・萬谷　隆一　ほか　『Junior Sunshine 6』　令和２年　開隆堂